

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
令和6年度 第1回 ハイブリッド理事会報告

- 日 時：令和6年4月11日(木) 14:00-16:50
○場 所：JSOS ビル3F 会議室1とWebのハイブリッド会議
○出席者：丸会長、蛭田・飛松・吉田各副会長、小野寺専務理事、古賀・赤尾・望月・栗田
濱田常務理事、佐藤・前田・野村・小高・中橋・山口（途中離席）・島田・西谷・
畑中・平田・中島・小田部各理事 以上22名
古屋、佐久間各監事 以上2名
○欠 席：町田・安井常務理事、樋口・杉本理事

1. 開 会

2. 丸会長挨拶

現在、善管注意義務違反ということで指摘されている中、理事会に参加することが不適切ではとも考えたが、代理人である萩原弁護士のアドバイスにより、議事によって参加してもよいとのことで、短期借入保証人でもあり、5月末までは、代表理事として務めることになった。皆様のご理解を得ながら進めたい。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時26名中22名出席 監事数 2名中2名出席
(定款第33条、定足数=14名(1/2以上))

4. 議長選出

丸会長が最初は議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題 (注. 審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について

令和5年度第16,17,18回理事会議事録、全国理事長会議議事録の承認について(事前送付済)、異議なく承認された。第2号以下は、蛭田副会長が議長となった。

議案第2号 臨時総会について

丸会長の辞任について

5月31日まで会長は努めるが、6月の定期総会で理事も辞任としたいという内容の文書が、4月8日に萩原弁護士宛伝達された。そこで、丸会長の真意、今後の対応を確認したいと議長がのべた。

丸会長が以下のように説明した。

蛭田副会長、山本副会長と協力して、複数ブロックに基金協力を依頼した。3月20日の理事会の結果を受けて、債務超過の可能性があるとのことで更なる対応を検討した。3月29日に基金の必要性を訴え、なんとか協力いただけないかを依頼し、それを受けて、4月2日に着金を確認した。

辞任の時期は、和解に向けて協議していること、協賛企業との契約の確定等いくつか行事もあり、6月23日予定の定期総会での理事辞任が最も良いと考えた。発表は、本日のメディア(PM5:00から開始予定)との情報伝達の場でおこないたい。

その後、以下のような意見がでた。

- 新しい会長が決まっていないと、発表できないのではないかと。
- 会長未定なら、会長代行(筆頭副会長)が執行するということかどうか。
- 5月9日の理事会で新会長を決めるということにしてほしい。決まれば、会長代行が出る必要はない。
- 後手を踏んで周りからうわさがでるより、早めに発表をする方がよい。
- 理事会として、はっきり態度を決めたほうがよい。
- 蛭田副会長も同席の上でメディアに発表してはどうか。
- 4月14日総会の時には正会員にも発表する。
- この時に、理事交代の動議が出る可能性があるのではないかと。
- 正会員には、本日、会長辞任の旨伝達してほしい。
- 臨時総会は、最初は丸会長が議長となり、議長交代の動議を出し蛭田副会長を議長の提案をする。

財政再建骨子案について

当日は、12:30ぐらいから、財政再建骨子案の説明を吉田副会長が対応する。当日は、吉田副会長が、配布資料を基に説明し、望月常務理事が補足する。今後、4月14日に臨時総会で説明、正会員から意見を募集し、5月理事会で骨子として確定する。再建策の土台として、今後の方針や目標を合意していただく必要がある。7月から財政再建委員会が稼働する。

2回目の基金募集をするかは、令和5年度の決算状況を確認した上で、対応を検討する。

臨時総会時の数値目標については、濱田常務理事がまとめる。

SC関係は、町田SC部長(競技は百瀬委員長)が対応する。

以上の協議のち、当日説明する内容と配布資料について採決を取り、異議なく承認された。

賛成：22名 反対 0名 棄権 0名

議案第 3 号 生涯スポーツ功労者表彰者について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。対象者の選考基準が高いため、JMCSA からは候補者を出すことは難しい。

議案第 4 号 SC 競技規則の改定について

中島理事が配布資料を基に説明した。選手が競技中に受傷した際には新ルールでは医療関係者が競技継続の可否を判断するとなっている。ジャパンツアーでは、医療関係者は医師ではなくアスレチックトレーナー、看護師であることもあり、競技継続の判断が難しいことも想定される。この点について医科学委員会の意見をまとめて技術委員会の羽鎌田委員に相談した。この結果、医療関係者が選手の競技継続の可否の判断に迷った際には審判長に相談することは可能である。しかし、最終的には医療関係者が判断することになった。提案された文面について、異議なく承認された。

議案第 6 号 案全登山のための登山道を考えるシンポジウム共催について

古賀登山部長が配布資料を基に説明し、異議なく承認された。

議案第 7 号 2024 スポーツクライミング国際競技大会ユース日本代表選手選考基準（ボルダー・リード）について

西谷理事が配布資料を基に説明し、異議なく承認された。

議案第 9 号 利益相反ポリシー、危機管理規程について

山口理事が説明し、前回の理事会で、指摘された点を変更することで再提案を行った。

-公益財団法人になっているので、社団への変更が必要。

-ポリシーとあるが、規程にする。

しかし、ポリシーのままでよいのではないかということになり、

“利益相反ポリシー”のままということ、異議なく承認された。

“危機管理規程”についても異議なく承認された。

議案第 8 号 正会員入会について

配布資料を基に、小野寺専務理事が説明したが、“JMCSA の目的に賛同”という点で疑義があり、交渉中であることから現時点では保留という提案がされ、異議なく承認された。

また、現正会員（石原氏）の辞任についても、撤回ということによりか確認することになった。

7. 報 告

議案第1号 月次報告、キャッシュフロー

赤尾事務局長が最新の予算管理表を基に説明し、基金収集状況と、今後の収益見込み（最終的には5月に決定）から、債務超過は免れる模様であることを説明した。

（議案第2号から第10号までの報告議案は、常務理事会で承認されているので、小野寺専務理事が、各自読むように伝達した。）

8. そ の 他

4月14日で使用する資料は、財政再建骨子案を配布（未定稿を消して）する。理事等の責任の明確化については、今回は配布せず、口頭で説明する。

令和6年4月11日

記録 赤尾 浩一

以 上